



第7回目になります青枢通信は、深沢紅爐（こうろ）さんの登場です。

ご存知のように深沢さんは青枢会の理事でもあり、日本遊印アート協会の代表も務められ、また遊印関係の著書も数多く出版されたり、NHK「おしゃれ工房」出演など、多方面に活躍されています。

遊印アートという、書画と版画が融合されたような方法論での制作には、ジャパネスクな魅力と可能性を大いに感じます。そんな深沢さんの創作の秘密をお聞きしようと、4月1日から開催された第25回日本遊印アート協会展にお邪魔して、お話をうかがってきました。展示会は大盛況（素晴らしい）、あまりゆっくりお話をしている時間がなかったので、後日電話とFAXにて補足取材をさせていただきました。



遊印アート協会展で、自作の前でポーズしていただきました。



遊印アート協会展・会場の様子。沢山の方達がお見えになって、大盛況です。印作り体験なども出来るコーナーなどもあり、工夫されています。

深沢さんは子供の頃、書道と珠算、中学・高校時代は書道と日本画を選択されていたそうです。中・高は文京区にある跡見学園。跡見学園は当時、男子学生の憧れの女子校で、油彩・日本画・工芸・書道など文化教育に力を入れていた環境がありました。

40歳頃、子育てが一段落されて、現代書道研究所（中島司有）に学び、書道大学・水墨画俳画・短歌の稽古に猛進されたそうです。また、洋画もモネやロートレック・マティス・デュフィなどが好きで展示会に足を運ばれたとか。

最も魅せられていたのが、与謝蕪村の水墨画であったそうですが、そんな折、篆刻の絵も字も彫れる印の可能性に巡り会い、もっと自由に全てのアートと融合できるのではないかと、遊印アートを創設、協会まで設立されたそうです。

深沢さんの説明に、「押せないものは空気だけ」というくだりがあるのですが、まさにその言葉に、表現の自在な広がりを感じます。

その頃と時を同じくして、扇面展にもお嬢さん（琴絵さん）共々出品されていて、そこに青枢の此木さん・丹羽さんがいらっしゃったのがきっかけで、青枢展にも出品が始まり、その後、遊印アート協会も都美術館の使用が認可されて、両方での発表と相成ったそうです。協会の代表を務めながら、方や理事をされて両方で発表は、さぞやハードではないかと、頭が下がる思いです。

しかし残念ながら、協会の方は高齢化が進み、東京都美術館での発表は来年までだそうです。その後は有楽町・交通会館に場所を移し、発表を続けられるそうです。

でも、消しゴム印の講座を全国に発信・発展させていきたいと抱負を語られていますので、益々これからパワフルに活動をされる事と思います。作品と活動が相乗効果を持ちながらどう変化していくのか、楽しみです。



著作も沢山紹介されていました。私（米谷）も挿絵を描かせていただいた事もあって、懐かしい本もありました。



深沢さんの作品は、並べ方も重要な要素として作用しています。一つ一つも自立していますが、並べて繋がる事も最初から計算して制作されていますね。

深沢さんの制作・技法は版画の凸版のジャンルとなるゴム版画を核としたモノタイプ（1点もの）の制作で、そこにデカルコマニーやスプレーを使った手彩色が加えられた、様式に捕われない自由な技法である事が分かります。

描かれるモチーフも海外の城であったり、ビル群であったり、はたまた文字メッセージであったりと「自由に印に彫って、自由に表現する遊印アート」という協会の掲げる主旨を体現された作品であり、迷いの感じられない独自の技法と言えるでしょうか。

勝手に想像ですが、書道・日本画・水墨画・俳画などと篆刻や軸の表装まで御自分で手がけられて、各々が近いジャンルとはいえ、異なる技法・価値観の引き出しが深沢さんの中にあればこそ、生まれてきたものではないかと推測します。

また、海外によく出向かれておられるのにも、多様な文化の融合が作用しているのかも知れません。



今回掲出した作品はすべて平面ですが、深沢さんは半立体・立体の作品も時々挑戦されています。

まだまだ進化中、これからの仕事にも大いに注目したいと思います。

最後に、深沢さんが語られた青枢会の魅力、それは、入会当時に此木先生が語られた「何やってもいい、未完成でもいい！どんどん挑戦していく事」という激励が原点にあるそうです。良い出会い、そして勇気が出る言葉ですね。

編 集 後 記

先に紹介した、高齢化により、美術館の展示を断念されたという話は、我々青枢会員にとっても対岸の火事とは言えません。

現在、多くの団体が同じ問題を抱えているようで、会派の異なる画家さん達と話をすると、よく同じ話を耳にします。

しかし、心配ばかりしていても状況は変わりませんし、会を活性化していく事とポジティブな活動をするなかで、妙案も生まれてくるものでしょう。

皆で会を盛り上げて、更に良い展覧会を目指しましょう。(米谷)

新作の黒く塗られたバージョン。

窓から、あるいは望遠鏡で覗いた風景のようでもあり、黒が全体を引き締めて、モダンな表現になっています。



上・想・ロードス
100×350cmの大きな作品の中央部分図です。背景のデカルコマニーと印が一体となり、俯瞰図のような面白さがあります。

2003年の青枢展作品「想」白と黒、シンプルで幽玄な世界ですが、現代的な摩天楼が描かれた深沢さんらしい伸びやかな画風が印象的な作品です。
(横3.6m 作品の右側半分)



2015年6月発行・青枢会事務局 / 丹羽良勝
〒271-0093 松戸市小山 97-12 tel. 047-365-0053 ②